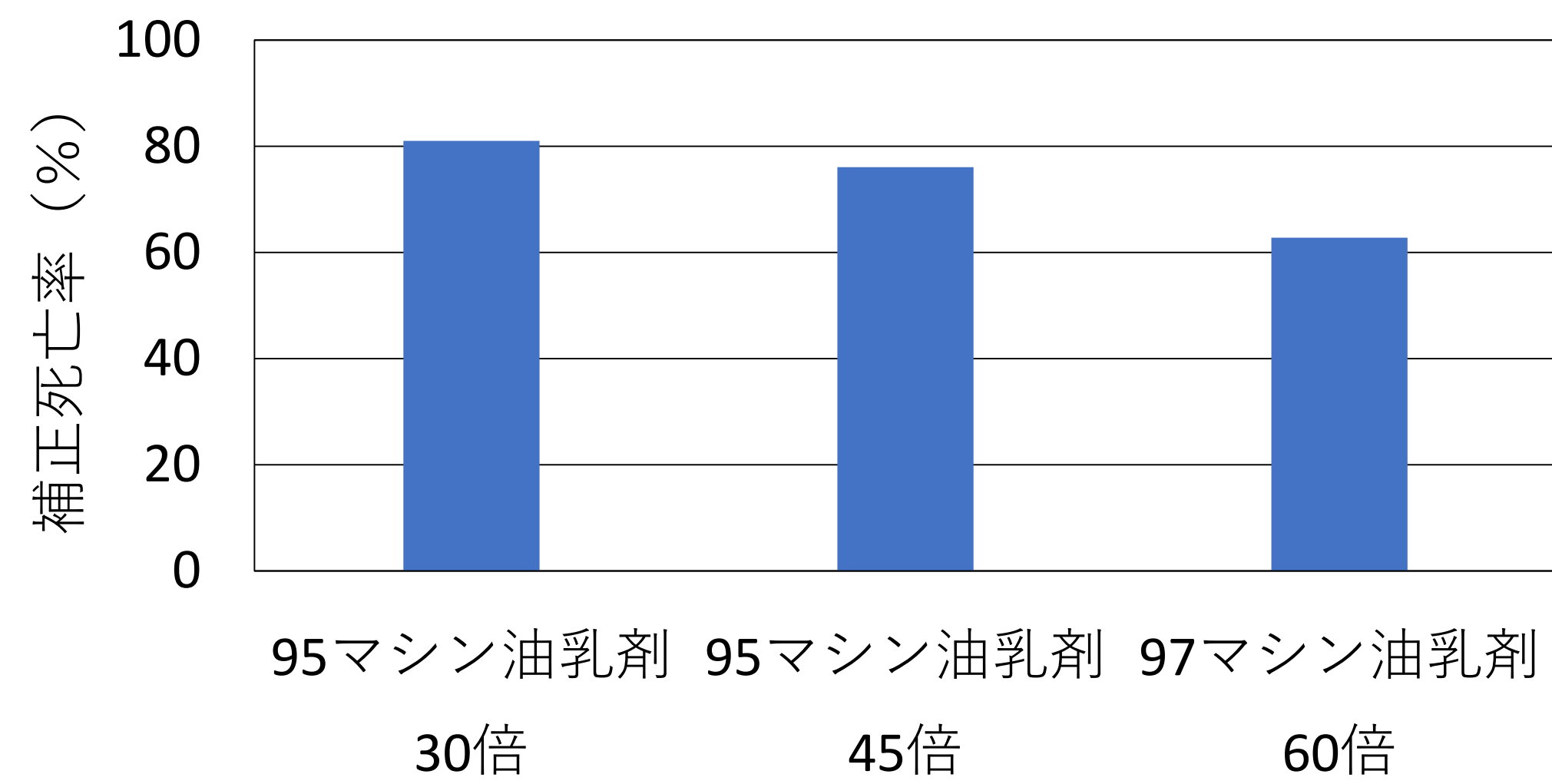


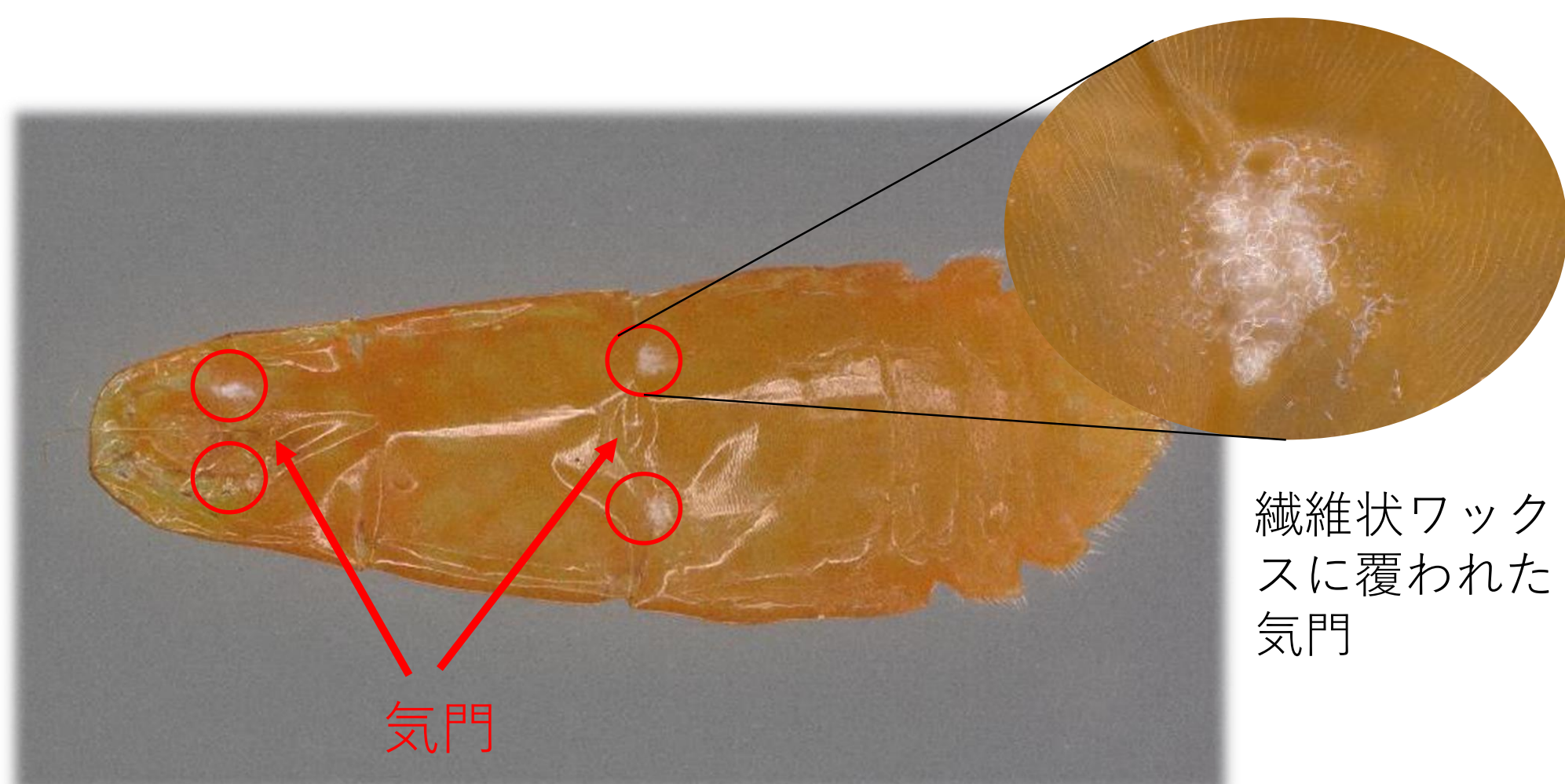
# かんきつのカイガラムシ類に対するマシン油乳剤の効果

カイガラムシ類に効果の高い薬剤の登録失効が予定されており、冬季のマシン油乳剤によるカイガラムシ類の防除の重要性が増している。しかし、カイガラムシの種によっては十分な防除効果が得られないことから注意が必要であるため、代表種に対する効果を紹介する。



**ヤノネカイガラムシに対するマシン油乳剤の効果は高い。死亡していない個体も、気門の閉塞（下記参照）などにより産卵数は減少する。**

図 ヤノネカイガラムシに対するマシン油乳剤の効果  
2007年2月19日散布 5月2日調査



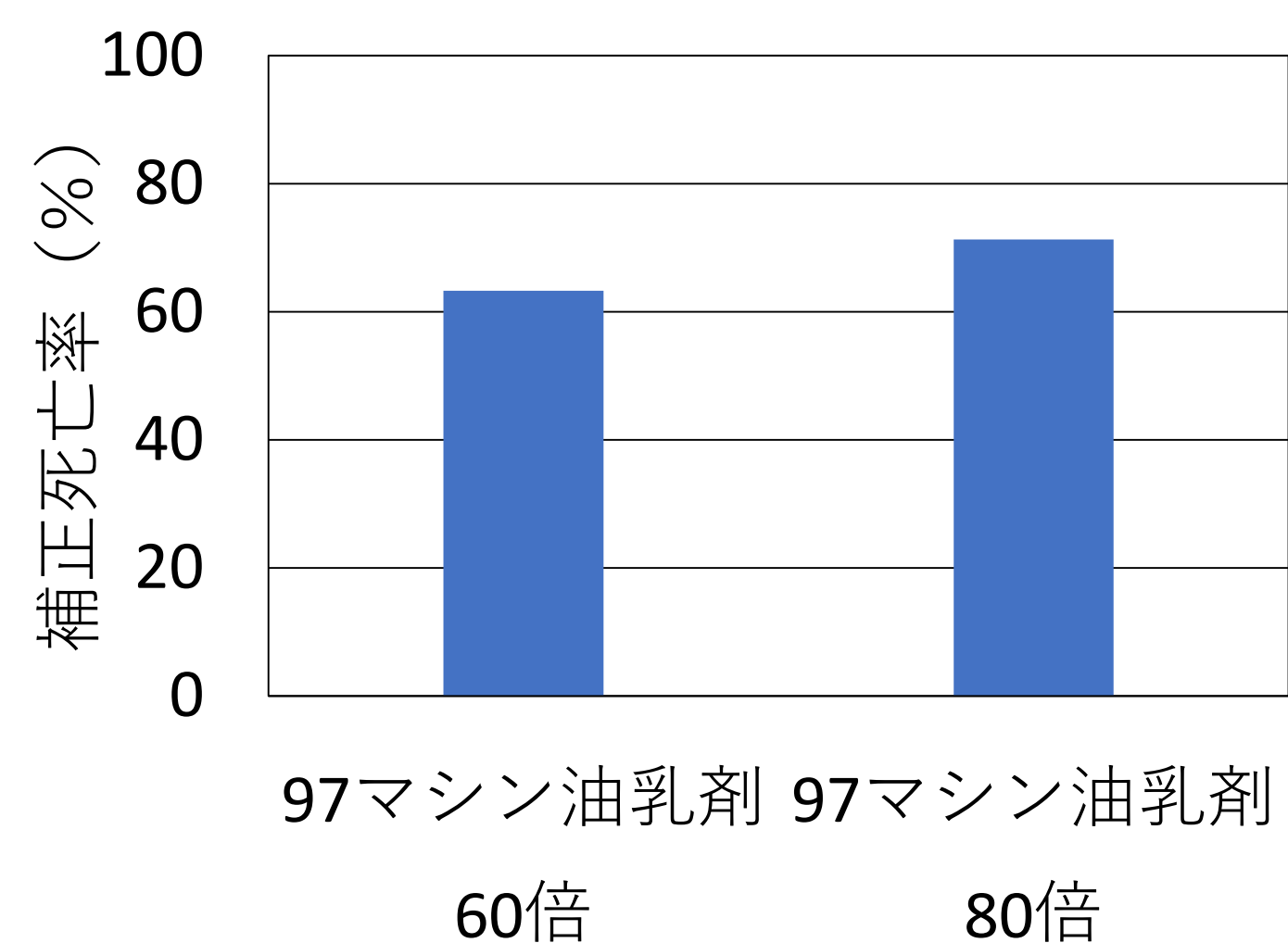
繊維状ワックスに覆われた気門

写真 ヤノネカイガラムシ雌成虫腹面の2対の気門



写真 繊維状ワックスがマシン油乳剤により溶解し、気門が閉塞されている様子

マシン油乳剤は、気門周辺の繊維状ワックスを溶解させ、気門を閉塞させることで効果が発現する。薬液が腹面の気門に到達するよう、十分量散布する必要がある。



**アカマルカイガラムシに対するマシン油乳剤は、やや生存個体がみられるものの、密度低減効果がある。**

図 アカマルカイガラムシに対するマシン油乳剤の効果  
2009年3月10日散布 5月1日調査

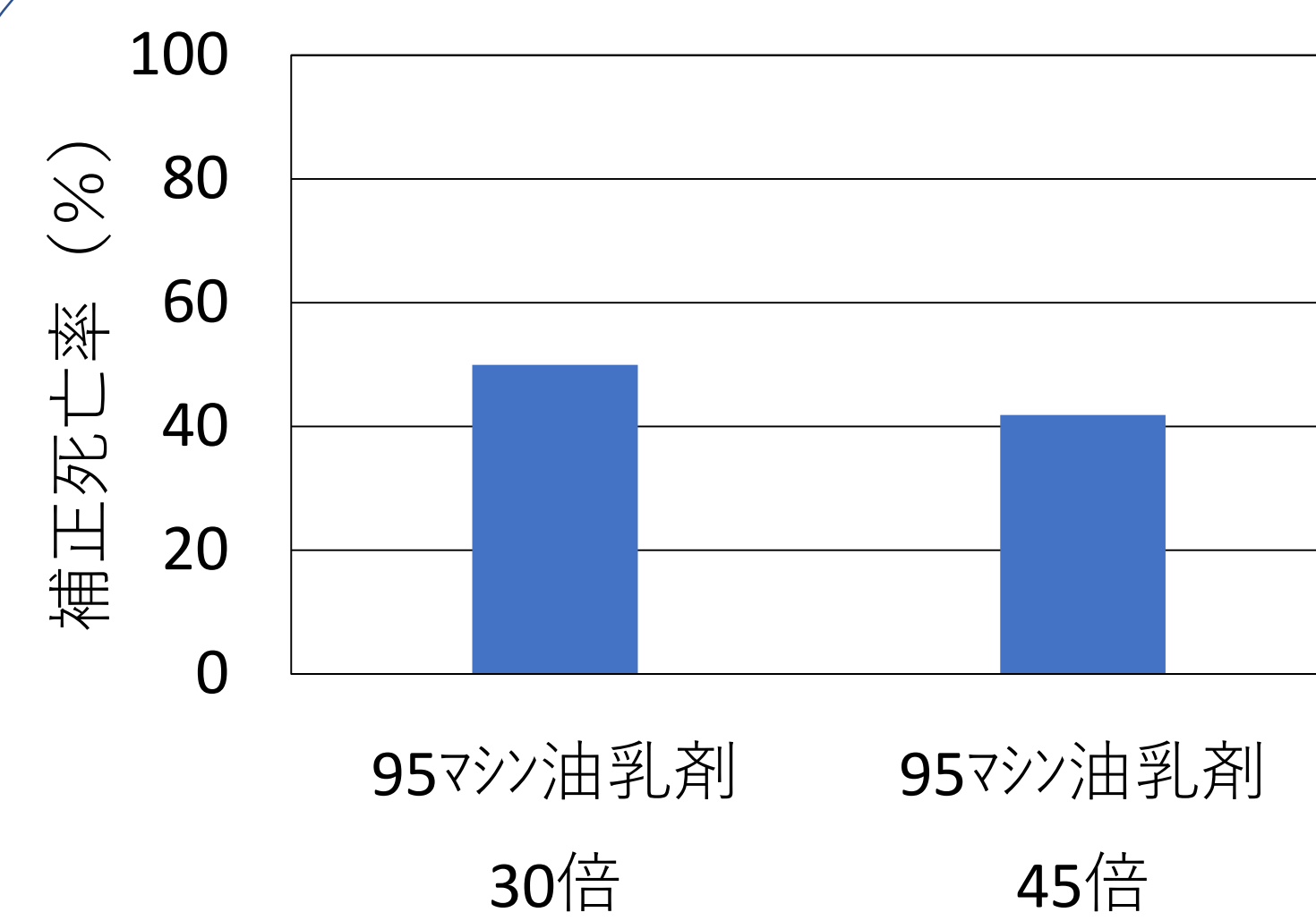


図 イセリヤカイガラムシに対するマシン油乳剤の効果  
2008年1月9日散布 3月7日調査

**イセリヤカイガラムシに対しては、濃度を濃くしても半数程度が生存しており、マシン油乳剤の効果はやや低い。**

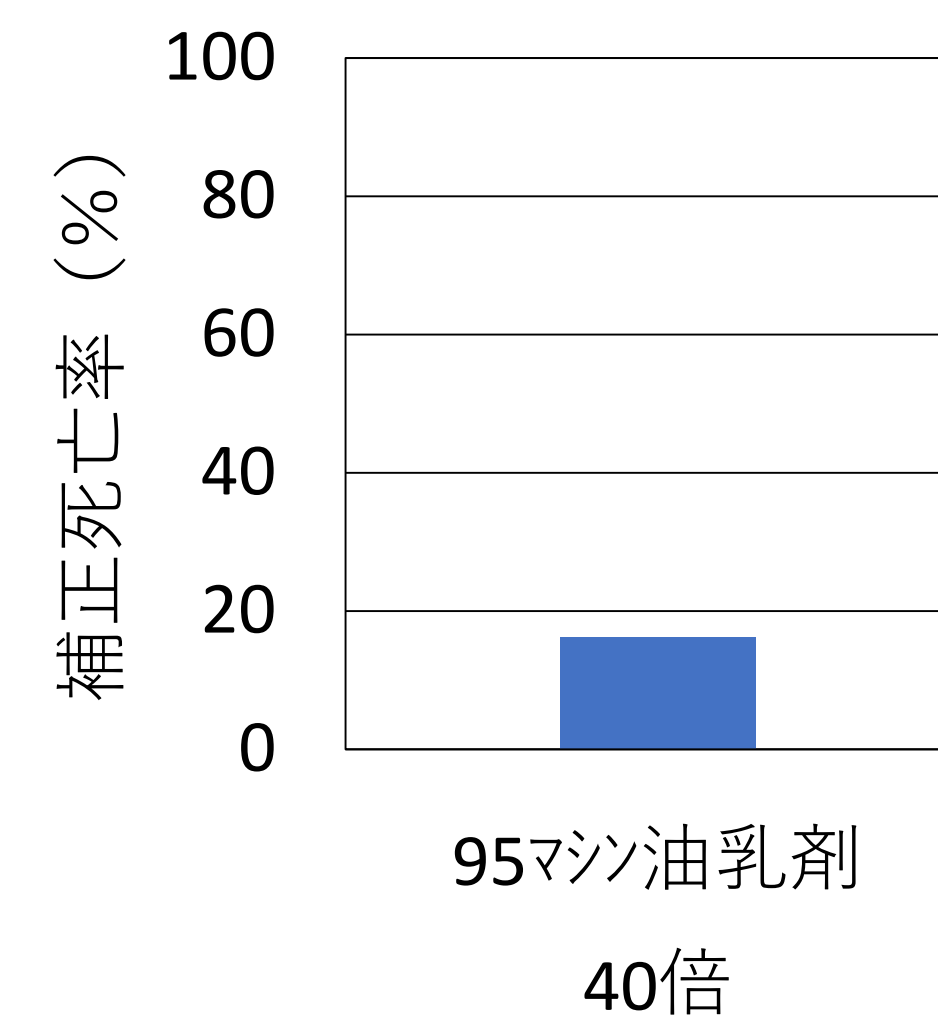


図 ツノロウムシに対するマシン油乳剤の効果  
2007年1月30日散布、5月12日調査

**ツノロウムシは、厚いロウ物質に覆われており、冬季のマシン油乳剤はほとんど効果がない。**

その他のカイガラムシ類に対するマシン油乳剤の効果は、ナシマルカイガラムシに対しては高いが、コナカイガラムシ類に対しては低いことが明らかとなっている。**イセリヤカイガラムシ、ロウムシ類、コナカイガラムシ類等の効果の低い種に対しては、生育期に重点的に防除を行い密度低減を図る必要がある。**